



北海道野付牛中学校
北海道立北見中学校
北海道北見高等学校
北海道北見北斗高等学校

東京 とどの実

〈発行〉

東京とどの実会 事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 4-6-11

湯島ハイタウン A-207

<http://www.tokyo-todonomikai.com>

Mail y-maeda-go@mua.biglobe.ne.jp

Mobile 090-8874-5239



会報の表紙ではここ何年か東京近辺で活躍する同窓生を紹介していますが、今回は48期スペイン舞踊家岡本倫子さんを池袋駅の東京芸術劇場近くにある「岡本倫子スペイン舞踊団」のスタジオにお訪ねしました。

笑顔で出迎えてくれた岡本さんは背が高く、すくすくとした立ち姿が美しく、さすがプロの踊り手という雰囲気を感じています。

北見市内の光西中学、北斗高校を経て、早稲田大学文学部に進学、演劇を専攻してミュージカル研究会に入り、同時に通っていた青年座の養成所でフラメンコに出会ったそうです。もともと子どもの頃からクラシックバレエを習っていたとのこと、踊り手としての下地は幼い頃から培っていらしたとお見受けします。著名なフラメンコ舞踊家である小松原庸子さんに師事した後、やはり本場へということ、24歳の時に渡西。フラメンコとクラシックエスパニョール（スペイン古典舞踊）のレッスンを受けて現地スペインの舞踊団のオーディションに合格。以後、4年に亘りスペインを中心にヨーロッパ各地で活躍して帰国。1987年に岡本倫子スペイン舞踊団を設立して、現在にいたるまで数多くの舞踊団公演を企画上

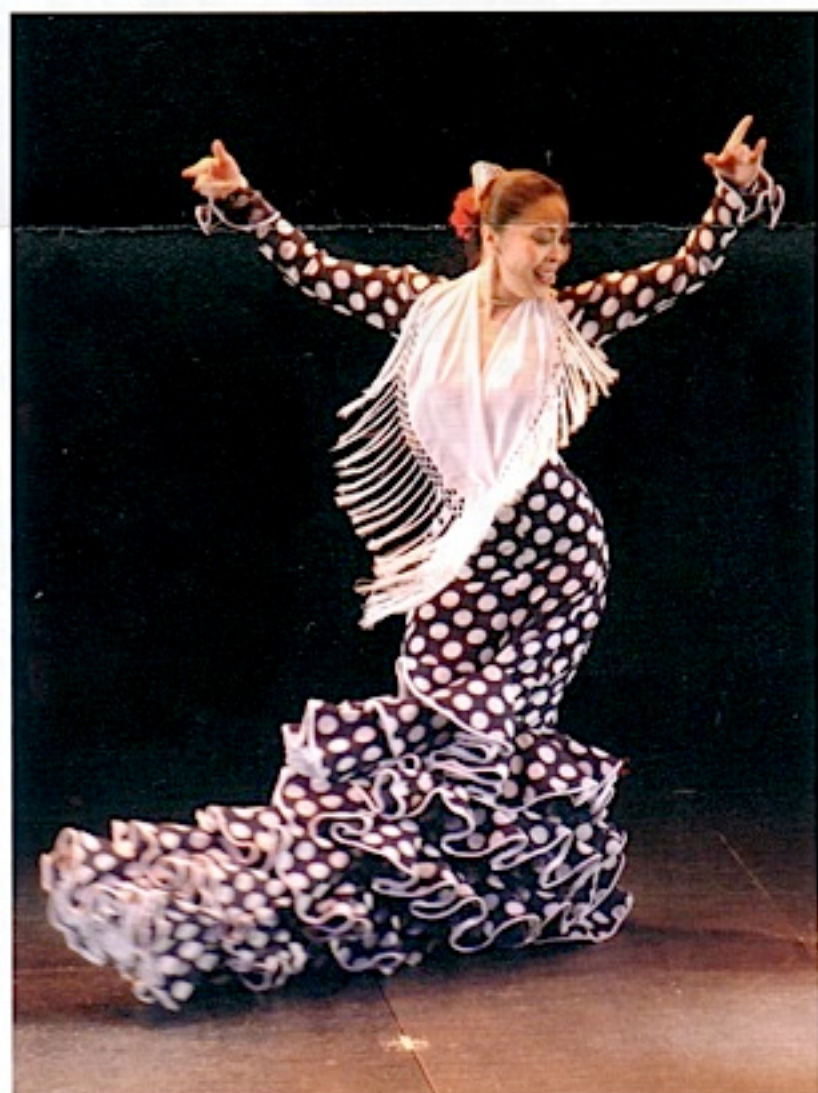
同窓生紹介

フラメンコに魅せられて

48期 岡本 倫子さん（日本フラメンコ協会理事）

演、文化庁芸術祭参加の舞台からミュージカルやオペラの振付けも手がける一方、教室を開いて後進の指導にも精力的にあたっているらしいです。

フラメンコは形があるようでないとのこと、踊り方も個人のオリジナリティーが尊重され、それぞれの先生の形があり、岡本さんもスペインでは複数の先生に習ったそうです。これが絶対というものがなければ、教えるのは難しいのですが、ご自身の経験もふまえて、身体や腕の使い方や足の打ち方など基本の要素も教えているとのことでした。初心者からプロを目指す方まで幅広い教室を本拠地の池袋だけでなく、



く、千葉、埼玉、神奈川県各県のカルチャー教室でも開設していて、レッスンの成果を発表する本格的なステージ公演を年に一回開催しています。また、新宿にある日本初のフラメンコショーレストラン「エルフラメンコ」のショーに参加することもあります。

舞踊家である一方舞踊団を率いる経営者としての立場も持ち、本場スペインから唄い手とギタリストを呼んでの公演はやればやるほど赤字ですと一瞬厳しい表情もされますが、年に一回もしくは二回の公演は会を重ねて25回。岡本さんはたくさんさんの踊り手を世に送り出した素晴らしい実績の持ち主でもあります。

これからのご予定はという質問に、岡本さんはずっとフラメンコを踊っていたいと言っており、おっしゃいます。フラメンコには重ねた年齢相應の踊りがあるとのこと、円熟味を増す岡本さんの踊りを是非とも鑑賞したいと思いました。

およせいただいた近況から

第42期 西垣内義則

45歳からのマラソンと 60歳からの社交ダンス

64歳になりすごく良かったと思うことがあります。それは45歳からランニングを始めたことです。動機はバブル経済がはじけてこれからの自分のライフスタイルを模索している時、中野孝次の『清貧の思想』を読んだことでした。「これからの自分の生き方はこれだな」と直感したのです。バブル期の夜型の生活から朝型に変更。朝4時に起きて5時から朝ランしてシャワーを浴びて食事して着替えて出勤。そんなライフスタイルに変えて60歳の定年退職を迎えました。

退職後の生涯スポーツを何にしようかと考えて選択したのが社交ダンスでした。ダンス



左 2010年9月にQちゃんたちと行ったシドニーマラソン
右 2010年12月、東京プリンスホテルで教師とダンス発表会



Blog <http://ameblo.jp/nishi42195/>

サークル、ダンス教室などで練習し2013年3月で丸4年になりました。かなり踊れるようになったので今年からダンス競技会に参戦する予定です。

こうしてみるとマラソンもダンスも割合競技志向です。とりわけマラソンは自分の限界への挑戦が好きです。マラソンはロサンジェルス、シドニー、北京、上海、シンガポールなど世界の都市を走りました。東京マラソンも3回出走しました。一昨年参加した東京マラソンは3時間28分。3万5千人走ったランナーの内、「団塊の世代」は1162人で私は43番でした。同世代では速い方でした。こうして、退職後も元気にマラソン、社交ダンスを楽しむことができるのが嬉しいのです。

海外に走りに行くことが多かったので英語、中国語も学習しました。これは62歳を返って英語はマニラに住んでいるフィリピン人教師と、中国語は瀋陽に住んでいる中国人教師と会話の練習をしました。両方共日常会話程度は話せるようになりました。コミュニケーションがスムーズになりました。とりわけ、中国語は、退職後、上海交通大学の夏期中国語講座にも留学したので、かなり聴いたり喋ったりできるようになりました。

2012年の10月、尖閣列島問題が起こった時に、北京マラソンのインターネット申込みが「日本」としてできないことが話題になりました。NHKがそれに関する番組づくりで、私が北京マラソンに何回も参加していることを私のBLOGを見て知り、取材にきました。その内容がNHK番組のなかで放映されたのです。

走ったり踊ったり喋ったりすると世界中に

たくさんの方々ができます。その人たちは「おやあ」とつながっています。好奇心と健康な身体と少々のお金、この三つが自分のセカンドライフを楽しくさせてくれます。

第42期 広川 正三

50年目のトライ!

花園開催50周年記念試合観戦記

全国高校ラグビーが花園ラグビー場で開催されるようになってちょうど半世紀たつのを記念して、第1回目の決勝を闘った北見北斗と天理高校のラグビー部OBによる決勝戦再試合が1月5日11時から花園ラグビー場で行われました。

出場選手はキャプテン尾崎先輩はじめ38期から42期のラグビー部OBの皆さんたち。昨年からの試合に向けて練習を重ねてこれれたそうです。同期からは田辺君・高橋君・高嶋君が参加しました。

風もなく絶好の試合日和の花園第1グラウンド。応援席にはとどの実会関西支部と東京とどの実会の皆さん他選手の家族・関係者が陣取り声援をおくりまします。



往年の勇姿

42期クラス

メイトで京都在住の井上(旧姓奥田)さんのご主人は奇しくも50年前の好敵手天理ラグビー部の主将。運命の悪戯かこんな人生の偶然が本当にあるんですね。この試合に出場するご主人と母校のどちらを応援するのが? という質問に笑顔で「北斗に決まってるでしょ!」

20分ハーフいよいよ試合開始。怪我をしないように程々という申し合わせが試合前にあったようですが、やはり花園は特別な場所グラウンドに立つとどうしても本気になってしまいうです。まして50年前はワントライも奪えず3対8で優勝を逃したこともあり、満身創痍になって果敢に闘う選手の皆さんの姿に熱い感動を覚えました。

大量リードされた後半、パントを上げたウイング川原選手がゴールに駆け込み天理バックスをタックルしボールを奪いトライ! 大歓声をあげ喜び合う北斗応援席の皆さんたち。

そしてノーサイド。善戦及ばず雪辱を果たすことは叶いませんでしたが、50年前の借りを返す念願のワントライをあげた選手の皆さんに惜しめない拍手が送られました。選手関係者の皆さん、ご健闘お疲れさまでした。感動をありがとうございました。

二度と無い試合を観戦しながら不思議な絆



member now

を感じました。この試合は50年前にすでに約束されていた運命的な試合だったのかも知れません。先輩諸兄から脈々とつながる北斗の誇り。北見北斗は永遠なり。北斗ラグビーをふたたび花園へと願わずにはいられませんでした。

第37期 松田 達

久しぶりの故郷

昨年九月、久方ぶりに北見を訪れた。北斗卒業五十年の区切りの同期会に出席するためだった。北見在住の幹事の努力で百名程が集まり盛會裡に終わった。

散会后、各々のクラス単位で二次会に移った。我々のクラスは比較的集まり好きが多いのか二十名の参加で深夜まで盛り上がった。



五十年を永かったと考えるか、あつという間と感じるかは人それぞれであろう。が、配布された同期の名簿を見ていて、自分が健康でいられることに感謝した。

散策 Report

緑あふれる武蔵野の、天平の史跡のまち

都指定名勝(殿ヶ谷戸庭園)と
国分寺史跡・湧水群散策

恒例の散策は、総会会場が中野に移ったこともあり、交通の便が良い国分寺周辺が選ばれました。お天気に恵まれたこの日、目印の「東京とどろの実会」の旗のもとに参集した14名は、38期小野副会長をリーダーに和洋折衷の回遊式林泉庭園である都指定名勝都立殿ヶ谷戸庭園から天平時代からの武蔵野の面影を残す国分寺周辺で、尾張徳川家のお鷹場に由来する「お鷹の道」や湧水群を木漏れ日の中で散策しました。同行のしろうと自然科学者を自称する45期岡田副幹事は植物、特に山野草に造詣が深く、参加者には良き案内人と



同期のなかで五十名の物語者、そして所在不明の人も散見されたからだ。自分はいえ、同期会当日朝からゴルフを、そして翌日も連日プレーをした。健康であればこそである。

立つと、かつての姿が脳裏に浮かぶ。仲間たちの顔、そして教師の姿など、普段は記憶の底に眠っているものが、機会があると蘇ってくる。そんな機会が同期会なのだ。そしてそこでは世間の欄はふっ飛んで、高校時代に戻っていく。

十年後、また同期会があれば多分参加するだろう。そして今回のようにゴルフをプレーし、酒を酌交わしたいと思っている。

今年の散策案内

今年散策

は山歩きのパ
テラン47期生
駒副幹事が
案内する高尾
山です。都心



からわずか50分で行ける東京のオアシスで初夏の森林浴を楽しみます。往復ケーブルカーを利用し、3時間弱山歩きをします。歩道はほとんど舗装されていますが、階段や斜面もありますので、くれぐれも活動的な服装と歩きやすい靴でご参加ください。

途中薬王院の参拝も予定しています。薬王院は約1200年前に開山された真言宗の寺院で、正式には「高尾山薬王院有喜寺」といいます。現在は成田山新勝寺、川崎大師平間寺とともに真言宗智山派の三大本山として広く知られています。

物語者一覧 (2012年)

ご冥福をお祈りいたします。

第8回・9年卒	寿原 茂夫
第22回・22年卒	新開 勝仁
第24回・24年卒	瀬川 理輝夫
第27回・27年卒	伊藤 孝子
第30回・30年卒	君野 米子
第34回・34年卒	石塚 寿男
第40回・40年卒	杉田 寛
第40回・40年卒	伊藤 弘通

(敬称略)

第62回「東京とどの実会」

2012年6月2日(土) 於／中野サンプラザ

第62回東京とどの実会の集いが行われました。

第62回東京とどの実会総会は6月2日(土)に中野サンプラザで
来賓に北見北斗高校校長平塚幸雄様、恩師醍醐薫先生、東京もいわ
会今井正司様、とどの実会会長渡辺和勇様をお迎えし開催され、101
歳になられた3期の吉見一郎さんから80期の小野木遼さんまで99
名の会員が集いました。総会は当番期44期の井上順治さん、畠山友
吏子さんの司会で和やかなうちにも厳粛に進められ、会計報告承認
や新役員の選出が行われました。桂名誉会長の乾杯の音頭で始まっ
た懇親会では例年のように思い出話や近況報告に花が咲きました。
今年は41期生13名が中心となり37期の齋藤久江さんの詞に41期
の小櫻崇策さんが作曲をした「同窓生」「おやすみ友よ」が披露され、
会の盛り上げに一役かいました。終りには恒例になった「今日の日
はさよなら」を全員で歌い、来年当番期45期の岡田光弘さんの中締
めで、来年の再会を期し、散会となりました。



挨拶をする小山内会長



会場 中野サンプラザ



38期長谷川さんのリードで校歌斉唱



総会開会の辞 44期 畠山さん 井上さん



平塚校長を囲んで



吉見大先輩(3期)を囲んで諸先輩方



東京とどの実会 桂名誉会長の乾杯の音頭ののち、旧交をあたためて歓談



44期の皆さん 当番幹事ご苦労様でした



散策報告



「今日の日はさようなら」を全員で合唱



中締めは45期岡田さん

編集後記

- ・前々号で紹介した81期藤澤五月さんを擁するカーリングチーム「中部電力」は先の世界選手権で惜しくもソチ五輪の出場枠を獲得できず、12月の最終予選まで持ち越しとなりました。同窓生皆で応援しましょう!
- ・会報に原稿をお寄せいただきました諸先輩の皆様へ

感謝申し上げます。次号に向けて、同窓生の方々の情報や近況を是非お寄せください。自薦、他薦お待ちしております。

- ・今年の会報作成にあたりましては48期の矢萩典行さんに全面的にご協力いただきました。

(47期伊藤)

思い出の一品



昭和47年強行遠足完走バッジ